

は、それぞれ18を基本数とする8倍体と10倍体と考えられ、アジサイ属にこのような高次倍数体が生じていることは今回初めて明らかになった。カラコンテリギ群は、判明している限り、アジサイ属中で染色体数の倍数化が起きている唯一の種群といえる。また、同種とされる種内に見いだされた倍数体間の形態差はほとんどないことから、倍数化と形態的分化は相関しないと考えられる。

□ Nagendran, C.R. & M.S. Dinesh: **The embryology of Angiosperms. A classified bibliography (1965-1985)** 240 pp. 1989. Indira Publishing House, Michigan, U. S. A. ¥ ca 19,000. インドの学者によって作られた embryology の文献集である。Davis が1965年に文献集を出してから20数年経ち、その間に多くの論文が発表されたが、まとまった紹介が無く、文献の検索に不便であった。ソ連から Yakovlev et al. (ed.), *Comparative embryology of flowering plants* 1 (1981), 2 (1984) が出版され、一部の科については文献集ができていますが、ソ連の本は入手しそこねると後で手に入れるのは困難なので、本書は便利である。ただ文献の収集が充分でなく、抜けているものがあるように思われる。(山崎 敬)

□ Troll, W. & F. Weberling: **Infloreszenzuntersuchungen an monotelen Familien** 490 pp. 1989. Gustav Fischer, Stuttgart. ¥ ca 19,000. Troll の *Die Infloreszenzen, Typologie und Stellung, 1964-69* が出版されてから20年たつ。この本は有名ではあってもなかなか難解で、わざわざ英語の抄訳が出されている (Austral. Syst. Bot. Soc. Newsletter no. 30: 1-21, 1982)。Troll は花序に monotelic と polytelic の異なる構造があると主張した。これは系統的にもかなり重要な性質と考えられる。Troll の後継者で Troll の説をさらに発展させている Weberling は、本書で monotelic な花序を持つ19科について、詳細な花序の解説を行っている。科の名だけをあげておく。Caryophyllaceae, Nyctangiaceae, Aizoaceae, Mesembryanthemaceae, Portulacaceae, Ranunculaceae, Berberidaceae, Papaveraceae, Droseraceae, Crassulaceae, Saxifragaceae, Linaceae, Vitaceae, Leeaceae, Hypericaceae, Melastomataceae, Gentianaceae, Menyanthaceae, Loganiaceae, Apocynaceae。(山崎 敬)

□ Grey-Wilson, C. (ed.): **A manual of alpine and rock garden plants** 278 pp. 1989. Timber Press, Portland, USA. ¥5,000. 最近「花の万博」に関連した問い合わせが多くなったので、参考のために入手した。ロックガーデン植物を属の ABC 順に配列し、同属内は近似植物でまとめている。主として栽培上の留意点が簡単な記述と記号で記されている。(金井弘夫)